

【資料】

平成28年度東北育種基本区特定母樹等普及促進会議および 平成28年度林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会

上田 雄介¹

10月25日、森林総合研究所東北支所において平成28年度東北育種基本区特定母樹等普及促進会議（以下、特定母樹等普及促進会議という）及び平成28年度林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会（以下、育種分科会という）が開催された（図-1）。

特定母樹等普及促進会議とは昨年度に設置された会議で、特定母樹の開発や性能を情報提供するとともに、取り扱いや普及について議論されている。育種分科会は、東北育種基本区（以下、当基本区という）における林木育種推進計画の進捗状況の報告等を行い、育種種苗の開発・普及の推進を目的に開催している。今年度は林野庁、当基本区の関係機関から41名が出席した。以下に会議の概略を報告する。



図-1 会議風景

特定母樹等普及促進会議

林野庁から、特定母樹の指定状況、特定母樹とエリートツリーについて説明があった。

東北育種場からは、東北育種基本区における特定母樹等について、平成27年度までに特定母樹27系統・エ

リートツリー66系統が指定された旨報告を行った。また、開発された品種の普及が促進されるよう、育苗等の品種の普及に関連する技術情報の交換等を行う林木育種連携ネットワークについて説明があった。

育種分科会

林野庁・林木育種センターからの説明

林野庁からは各種補助事業について、林木育種センターからは花粉症対策品種の開発推進についてや、第4期中長期計画・次期の林木育種推進計画の策定スケジュール等について説明があった。

当基本区における林木育種事業の推進について

東北育種場（以下、当場という）から以下の報告を行った。

- (1) スギ・アカマツ第二世代精英樹の選抜について、スギ第二世代精英樹の候補木を353個体選抜した。今後は選抜したクローン苗の諸特性の評価に取り組む。
- (2) スギ雪害抵抗性品種について、当基本区の西部育種区各県においてスギ雪害抵抗性品種で構成されたミニチュア採種園の造成（予定含）が進んでいる。当場では、雪害抵抗性第二世代品種の開発に取り組んでいる。
- (3) 当基本区各県及び当場における昨年度のマツノザイセンチュウ抵抗性候補木の選抜及び接種検定について、各県で計62本の抵抗性クロマツ候補木を選抜した。接種検定の実施状況では、アカマツ13クローン、クロマツ48クローンについて二次検定を実施し、このうちアカマツ4クローン、クロマツ2クローンがマツノザイセンチュウ抵抗性品種として認定された。
- (4) 各機関に対する原種配布計画について、特定母樹を含めた原種配布は各県から提出される種苗配布要望計

¹うえだゆうすけ 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

画に基づき計画的な配布を行えるよう生産に努める。

(5) 各県の通常・ミニチュアタイプの採種園等の造成について、これまでに開発した各種品種等が導入されており、今後も優良種苗生産に向け造成・改良を進めていく。

(6) 林木遺伝資源の収集・保存は概ね計画通りに事業を進めている。林木遺伝子銀行110番については、昨年度までに計23件が当事業への申し込み者に返されている。

各機関からの提案・要望事項について

東北森林管理局から東北育種場や各県に対し、花粉症対策品種の増産、採種園等における外部花粉対策の推進、林業の低コスト化に向けたエリートツリーの普及につ

いて要望があった。

岩手県からは、花粉の少ないスギ品種の配布量の増大、需要が増加しているカラマツ種苗について、カラマツ第二世代精英樹の迅速な配布と育種基本区を越えた配布の円滑な実施についての要望に対し、東北育種場からは、要望に出来るだけ早く答えるためにも、原木からつぎ穂の供給などを考えていきたい。種苗の配布については、種苗配布要望計画に基づき行うが、配布量の増大の要望については、個別に調整して参りたい。育種センターからは、態勢が整い次第配布を行っていききたい、と回答があった。